

平成21年度 学校評価「内部評価」報告

2009年度目標				2009年度の成果と反省	達成度	次年度(2010年度)の方向性
解決すべき課題	具体的施策	年度目標達成水準 (数値や具体的な成果)	担当者			
聖徳教育の良さを明確に説明する学生募集(新卒・気卒者)入学定員の確保	(1)入試状況の見直しと再構築と入学者確保を目指す。 ・高校内ガイダンス(本校売込みによる)の強化 ・学校見学の時間固定の廃止 ・学科別リーフレットの作成 ・新フォーマルウェアの採用・・・受益者コストの抑制	入学者数目標 1部生 51名 2部生 32名	募集	HP、パンフレットのリニューアルまた入試方法の検討により、オープンキャンパス・学校見学の参加者が増えた。2部生の受験者増加の半面、1部生減となった。	△	・オープンキャンパス参加者、学校見学者を増やし学校の魅力を伝え受験に結びつけていく。 ・大学・短大、社会人の進学者をさらに増やす。
	(2)専門学校独自性のあるHPを作成する。 ・資料請求者に対する(WEB等)きめの細かい連絡 ・中高支援(出前授業含む)をネットに公開 ・ネット(携帯含む)、媒体雑誌等による露出度アップ	2009年度利用件数を増やす	募集	HPのリニューアルで検索回数が増え、資料件数が120%増になった。	△	WEBを基軸として資料請求の拡大と社会人プロモーションを強化する。
学生等の「学び」の目的、目標の明確化	(1)入学前学習、ピアノレッスンの充実 (2)見学実習、インターンシップ実習等各種実習の充実 (3)保育者になる夢実現に向かって、具体的な目標設定、更新実施	・年間計画に位置づける ・インターンシップ実習1年次取得の徹底 ・保育者の素晴らしさイメージづくりの指導の強化	実習	・あらかじめ日程を明確にし参加者の有無を主体的に判断させる様式にしたことで参加度がアップした。 ・保育者のイメージは個人差が大きい。多様な実習等の機会を積み重ねるとともに、実習の振り返りを丁寧に行うことで「学ぶ意欲」を高め、「自己課題の明確化」へと繋がっていき、今後活用できるようにする。 ・インターンシップ実習を主体的に取り組むように働きかけた結果、1部生の卒業生全員が終了する。	○	・初回のピアノレッスンの日は、1年間の見直しをもたせ、学生自身が主体的に取り組むようにする。 ・インターンシップ実習、見学実習を通して保育者の素晴らしさイメージづくりに生かす。
基礎学力のレベルアップの徹底	(1)教育・教科内容の充実 ・入学前学習、基礎ゼミ、学科の中で実態に応じた指導 ・2010年度から実施となる教職実践演習についてその内容検討およびそれに伴う学則変更等の手続き ・教職実践演習導入に伴うカリキュラム変更等の手続き ・総合演習(基礎ゼミ)の見直しを含む	・問題を抱える学生への個別ファイルを作成し退学要因を突止め、退学抑止力とする ・全人格の形成となる生活リズムづくりの徹底 ・2010年度、新カリキュラムへの円滑な移行	教務	・教員間で学生に対する課題等の情報を共有化し退学防止に努めている。 ○自宅外学生へのサポートを実施(昼食会の実施等)し、生活リズムの改善をサポート ○入試面接官による個別面談を実施し、学生一人一人をしっかりと把握しサポート ○その結果、カウンセリング等も必要な学生に対する個別サポート ・今年度は教育実習終了後に保護者会を実施し、コミュニケーションがとれた面がその後の学生指導にプラスに繋がっている。 (面談した保護者の方とは、その後電話連絡等をする際にも話しやすい)	○	・学生との面談回数を強化するために、相談室等の活用を改善していく。 ・保護者との連携を図るよう保護者会の機会を設ける。
補習授業や補習指導体制の確立	GPA2.00未満の学生に対する特別指導。特別指導の名称、内容等についての検討を行い実施をはかる。	GPA2.00以上の評価獲得	教務	・2009年度最終学年1部2年生のうちGPA2.00未満の学生は4名であった。そのうち3名は留年となった。2部3年生については全員GPA2.00以上の評価を取得して卒業した。 ・保護者会の実施が家庭との連携につながった。とくにピアノ進度については面談でその状況を正しく把握してもらえた。	○	・GPA2.00未満の学生に対する特別指導を行う。 ・保護者会を実施し、成績や学校生活について、保護者にその状況を知らせる。

2009年度目標				2009年度の成果と反省	達成度	次年度(2010年度)の方向性
解決すべき課題	具体的施策	年度目標達成水準 (数値や具体的な成果)	担当者			
基礎スキルの習得を サポート及びレベル アップ	総合演習、総合講座を開講し指導の徹底	15コマ+1コマ増を 考える	教務	・2010年度、新カリキュラムへの円滑な移行に伴い 十分議論を重ねてきたとはいいたい。各学科に おいて成果を上げていないものを基に至急検討会 を立ち上げる	△	現在教員会において検討課題としており、10月半ば を目標にする。
各教員の研究レベル の向上	平成21年度聖徳大学幼児教育専門学校研究 紀要第五巻の発行を実施する。	継続	教務	紀要委員より前年度の四号について年度内の出版 が遅れているため意欲減退が教員に生じていると いう指摘があり、今年度第五号の発刊に際し、投稿 応募申し込みにもかかわらず、論文提出がされてい ないという結果が生じている。	×	まず前々年度の発行になる四号の査読を行い、 その上で出版を実施する。続いて第五号の再度 応募受け付けを年度頭初に行う。
幼児教育の直面 している問題を把握 し、対応スキルを 向上する	三田三園の入学式、生活発表会、運動会、表現 あそび、卒業式に参加し講評を行う。	継続	教務	仏教保育、保育士養成協議会等への出席を通じて 多様な幼児教育への取り組みと実践が教員間で 共有された。	○	引き続き各種研修会等に参加を促進する。また 入園面接にも参加し、こどもの保護者の現実状況 の把握まで広める。
自主性を育てる授業 指導方法の研究	「自主性を育てる授業」の公募を実施し、実践を FDで公開し、その取り組みから学ぶ。	実践例を2つ以上 確保する	自己 点検	・「自主性を育てる授業」の取り組みができなかった。 FD授業の公開結果からその糸口を探りたい。	△	FD授業の結果報告を教員間で共有し「自主性を 育てる授業」実践につなげたい。
FDシステムの見直し	専任教員は前後期1回以上の授業見学を実施 する。	全教員の実施 報告の整備	自己 点検	・FD授業見学後の報告書提出について、徹底が なされなかった。	△	報告書提出の義務づけおよび報告内容についての 確認方法を検討する。
「学び」の環境作り	学びの環境の安全性の見直し	建物安全性の 確保	FP	検討中	△	引き続き検討する。
	保育者として環境教育を徹底し特別講座を開いて 環境にやさしい生活のあり方を学ぶ	受講者の満足度 活用度を上げる	教務	2部3年生からECOな生活を知る授業を行う。	○	引き続きECOを学ぶ講座を開く。
	ISO環境教育の実践 エネルギー消費量の公開により削減にむける	2008年度を 下回る消費実現	学生	ISO環境教育の指導を行い、実践ができるよう 促した。エネルギー消費量減少ができた。	○	・引き続きISO環境教育を実施する。 ・エネルギー消費量を減らす努力を学校全体で 取り組む ・身近なことから取り組み資源の大切さを実践する
在校生・卒業生への 継続的支援	在校生、卒業生への保育技術向上のリカレント 教育講座を開く	参加者を増やす	GP	卒業生のリカレントと相談件数は増えている。 ハッピーホームカミングに18名の参加者があった。 現場の情報、悩みなど先生方と話しをし、満足して 帰った。	○	引き続き、卒業生の現状を把握しリカレント教育を 実施していく。
	教員免許更新講習実施	多数参加と 満足度	教員会	三田校舎受講者348名、充足率20%。予測より 少ない人数であったが受講者の満足度調査は 良い結果が見られた。	○	次年度は松戸校舎のみの開催となる。
委員会組織の見直し	委員会組織の改編および新委員会組織の 立ち上げ	現行10委員会を 6委員会に改編	教員会	・2008年度、10委員会組織の改編を企画した。 4月から6委員会組織をスタートさせた。 各委員会がコンパクトになった結果、事業遂行に 効率化がはかられた。	○	組織改編の効果を検証し、更なる委員会の充実を 図る。